

建築主：学校法人千葉学園 千葉商科大学  
 設計：工藤 和美+堀場 弘/シーラカンズK&H  
 施工：株式会社竹中工務店 東関東支店  
 所在地：市川市国府台1-3-1

～ゆらぎ～木漏れ日の下で集う

## The University DINING



2段の木梁が作り出す心地良いワンルーム空間

(撮影/浅川 敏)

『The University DINING』は千葉商科大学キャンパスのメインストリートに位置する。隣接する建物地下にあった旧学食のリニューアル構想を発端として計画された。建物は平屋で3方向を透明ガラスで囲み、大きな木屋根をかけている。メインストリートから1m程度上がった位置にあるため、遠目にも中の活動の様子が感じられる空間となっている。

建物に入っても屋内という感覚はなく、天井の梁間からの柔らかい光と外まで広がる視線。少し先の梁が連続して目に入る躍動感がある。絶妙な天井高が居心地良い。リビングを意識したという。

建物構成はシンプルかつ明快である。努力の結晶は木屋根の構造にある。繊細なLVL材を敷き並べ、上下2段鏡面反転に重ねた格子状の版。それを細い鉄骨丸柱で支えている。梁の配列は1/fゆらぎのリズムを用い、プログラム化して、構造解析と共に決定したという。31m×30mの木屋根で同じ配列となることはない。梁ピッチを波のよ

うに振幅させることで柔らかな『木漏れ日のような光』を実現した。

その他、学食プロジェクトとしてプロデュース会社+専門クリエイティブメンバーも加わり、運営やインテリア、グラフィックデザインまで質の高いものに仕上がっている。フロアスタッフには学生も参加している。

大学に新しい息吹を吹込んだのは間違いない。学生・教職員のキャンパスライフを充実したものにし、食事だけでなく、授業の合間・放課後も集える活動拠点のひとつとなった。一般の方、高校生も訪れるスポットにもなった。大学の教育活動の広がりを予感させる空間となった。(藤本 香)



キャンパスに<sup>あか</sup>灯りをともし夕景

(撮影/浅川 敏)



地域の人たちも立ち寄り、ダイニングの軒先

(撮影/浅川 敏)